

令和 3 年 度

通 常 総 会 議 案

日 時 : 令和 3 年 6 月 1 1 日 (金) 1 5 : 0 0

会 場 : かごしま県民交流センター

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

総 会 次 第

1. 開 会

2. 会 長 挨 拶

3. 来 賓 挨 拶

鹿児島県国際交流課長 伊瀬知 強氏

4. 議 長 選 任

5. 議 事

第1号議案 令和2年度活動報告

第2号議案 令和2年度収支決算報告
(監査報告)

第3号議案 令和3年度活動計画(案)

第4号議案 令和3年度収支予算(案)

第5号議案 役員改選

6. JICA 海外協力隊の現況と今後の取組

JICA 九州所長 吉成 安恵氏

7. 閉 会

第1号議案 令和2年度事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1. 帰国(一時帰国待機中隊員を含む)隊員への進路支援

- a) 本会会員企業・団体、帰国隊員勤務先等からの情報収集と帰国隊員への提供
- b) 帰国・任期短縮隊員6名の知事表敬に同行
- c) 一時帰国中・派遣前協力隊員との意見交換会及び支援策について

日時: 2020年6月20日 10時～12時

場所: かごしま県民交流センター

参加者: 県国際交流課長、一時帰国隊員12名、派遣前隊員5名、JICA九州3名、協力隊OV4名、支援する会

内容: 各隊員より現状の報告と今後の取組(進路)についての報告

JICA九州所長よりJICAの取組について説明

質疑応答

2. 現職派遣の推進

今年度の派遣は中止

3. 協力隊事業の広報並びに国際性豊かな青少年の育成

- a) 「協力隊OBと留学生が先生」教育プログラムの実施

(青年海外協力隊鹿児島県OB会、(公財)鹿児島県国際交流協会で実行委員会組織)

- ・県下19市町村38小中校で実施。対象者2399名
- ・37名のOVと20名の留学生を派遣

- b) 第29回鹿児島県青少年国際協力体験事業の実施

(青年海外協力隊鹿児島県OB会、(公財)鹿児島県国際交流協会で実行委員会組織)

ラオス国への派遣を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により派遣を中止。

- c) 国際協力講演会開催

(青年海外協力隊鹿児島県OB会、鹿児島市国際交流財団との共催)

・開催日 — 2020年12月6日

・場所 — かごしま国際交流センター

・内容 — 第1部 講演会

講師 藤田千代子氏(ペシヤワール会ピースジャパンメディカルサービス支援室長、鹿児島県出身)

演題 「アフガンに命の水を～中村哲医師・PMSと共に」

第2部 青年海外協力隊帰国報告会

報告者 益田寛子OV(ブータン・聾学校美術教師)

南 智大OV(ネパール・上下水道)

・参集者－約100名

d) ホームページの <http://www.kagojocv.net> の運営

4. 派遣協力隊員、シニアボランティア、日系社会青年ボランティアへの支援

a) 月刊誌「グラフかごしま」・「かごしまナウ」の送付

b) 帰国・任期短縮帰国知事表敬同行

2020年10月30日6名の帰国・任期短縮隊員の知事表敬に同行

5. 組織強化及び会員サービス

a) 月刊誌「クロスロード」の送付

b) 会報「積乱雲」年2回発行

c) 会員への情報提供及び2021年協力隊カレンダーの送付

d) 会員状況（会費未納者を除く）

令和3年3月31日現在

	会 員 数	対 前 年 比	口 数	対 前 年 比
地 方 自 治 体	30	増減なし	47口	増減なし
団 体 ・ 企 業	42	－3	54口	－3
個 人	30	－13	32口	－13
合 計	102	－16	133口	－16

6. 国際協力支援及び広報活動

a) 帰国協力隊員活動パネル展イオンモール鹿児島での開催に協力

b) 南日本新聞社への取材協力

c) 講師派遣－鹿児島県立短期大学、中村学園大学、

7. 各種機関・団体との連携

a) 青年海外協力隊鹿児島県OB会との連携

b) (公財)鹿児島県国際交流協会主催イベントへの協力

c) (公財)鹿児島市国際交流財団主催イベントへの協力

d) 国際協力機構 JICA への協力

e) NPO 九州海外協力協会への協力

8. 会議開催及び行事参加

a) 通常総会－令和2年6月25日

b) 理 事 会－令和2年6月25日

第2号議案 令和2年度収支決算

(令和2年 4月 1日 - 令和3年 3月31日)

< 収 入 >

(単位円)

項 目	予 算 (A)	決 算 (B)	増 減 (B-A)	適 要
会 費	1,265,000	1,170,000	-95,000	法人会員101口×10,000 個人会員32口×5,000
助 成 金	80,000	80,000	0	(一社)協力隊を育てる会
雑 収 入	1,000	7,397	6,397	預金利息、カレンダー販売代金
繰 越 金	1,684,678	1,684,678	0	
合 計	3,030,678	2,942,075	-88,603	

< 支 出 >

項 目	予 算 (A)	決 算 (B)	増 減 (B-A)	適 要
1. 事務局費	270,000	125,590	-144,410	
通 信 費	50,000	51,694	1,694	総会案内、請求書発送,他
印 刷 費	50,000	51,250	1,250	総会資料、コピー代,
会 議 費	60,000	4,308	-55,692	理事会、総会会場費
消 耗 品 費	40,000	8,338	-31,662	封筒、文房具、振込手数料,他
負 担 金	20,000	10,000	-10,000	協力隊を育てる会年会費
旅 費	50,000	0	-50,000	
2. 事業費	2,090,000	993,856	-1,096,144	
クロスロード月刊誌送付	250,000	172,220	-77,780	1,308冊X130円、カレンダー同封手数料
出発隊員壮行会	100,000	0	-100,000	
帰国隊員支援	50,000	39,546	-10,454	帰国隊員
国際協力講演会	30,000	0	-30,000	
留守家族懇談会	10,000	0	-10,000	
協力隊OBと留学生が先生	350,000	350,000	0	実行委員会負担金
派遣隊員への支援	300,000	0	-300,000	
広報活動	250,000	119,600	-130,400	H/Pプロバイダー費、カレンダー購入費
会報発行	250,000	112,490	-137,510	編集・印刷費、送料
青少年国際協力体験事業	200,000	200,000	0	実行委員会負担金
国際協力支援事業	300,000	0	-300,000	
予備費	670,678	0	-670,678	
合 計	3,030,678	1,119,446	-1,911,232	

(次年度繰越)

2,942,075-1,119,446=1,822,629

令和2年度 監査報告

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会の令和2年度事業報告、
収支決算書について、帳票その他関係書類等を監査したところ、
その内容は適正であると認めます。

令和3年5月15日

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

監事 千竈 逸雄 

監事 橋口 和典 

第3号議案 令和3年度事業計画（案）

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

1965年開発途上国の国造り人造りに貢献することを目的に発足した青年海外協力隊は、2020年12月31日現在累計で92カ国へ45,515名を派遣してきました。本県からも88カ国に883名が派遣され、青年人口10万人当たり派遣者数は55.1人と全国でトップの派遣県になりました。これも長年にわたる関係各位のご支援ご協力の賜物です。

現在は新型コロナウイルス感染拡大により、派遣隊員全員の帰国や新規隊員募集活動の縮小など、国内外の感染状況を注視しながらのJICA海外協力隊事業運営となっています。

本会の目的の一つであります協力隊事業の支援に関わる活動には制約がありますが、次代を担う国際性豊かな青少年の育成や、鹿児島県の更なる国際化に向けての各種活動を続けてまいります。

1. 帰国隊員（一時帰国待機中隊員を含む）への進路支援

- a) 県下自治体の帰国隊員採用等の情報収集と提供
- b) 民間企業求人先開拓とJICA民間連携セミナー等の活用
- c) 帰国隊員の知事表敬同行
- d) 県内企業求人・進学など進路に関する情報収集と提供
- e) 本会会員企業・団体、帰国隊員勤務先等よりの情報収集と提供

2. 現職派遣の推進

募集説明会への出席や問い合わせ等で制度の紹介を行い応募相談に応じる

3. 協力隊事業の広報並びに国際性豊かな青少年の育成

- a) 「協力隊OBと留学生が先生」教育プログラムの実施
（青年海外協力隊鹿児島県OB会、（公財）鹿児島県国際交流協会で行う実行委員会組織）
 - ①県下25市町村の43小中校で実施
- b) 第30回鹿児島県青少年国際協力体験事業の実施
（青年海外協力隊鹿児島県OB会、（公財）鹿児島県国際交流協会で行う実行委員会組織）
例年夏休み時に中高生を協力隊員の活動現場に派遣していますが、本年度は途上国の感染状況やワクチン接種の進捗状況、協力隊員の再派遣状況より夏休みの派遣を中止し、来春の派遣を検討します。
- c) 国際協力講演会開催
（青年海外協力隊鹿児島県OB会、（公財）鹿児島市国際交流財団との共催）
 - ・時 期 — 令和3年12月
 - ・内 容 — 講演、協力隊帰国隊員報告
- d) ホームページの <http://www.kagojocv.net> の充実

4. 派遣中青年海外協力隊員・シニア隊員・日系青年ボランティアへの支援

- a) 月刊誌「グラフかごしま」・「かごしまナウ」の送付
- b) 壮行会の開催
- c) ボランティア家族連絡会の開催
- d) 知事表敬への同行

5. 組織強化及び会員サービス

- a) 月刊誌「クロスロード」及び協力隊カレンダーの送付
- b) 会報「積乱雲」の発行及び送付
- c) 会員増強　－　留守家族、民間企業、各種団体および個人へ加入の呼びかけ

6. 国際協力支援及び広報活動

- a) 県内各地での帰国隊員報告会の実施（協力隊OB会との共催）
- b) 「小さなハートプロジェクト」の実施
- c) 県民の「国際支援・協力への思い」橋渡し支援
- d) 国際交流・協力イベントへの参加－パネル展示、相談コーナーの設置
- e) マスコミへの取材協力
- f) 講師派遣　－　自治体、高校、大学、各種団体、企業等

7. 各種機関・団体との連携

鹿児島県、JICA 九州、青年海外協力隊OB会、(公財)鹿児島県国際交流協会、(公財)鹿児島市国際交流財団、鹿児島国際交流協会センター（KAPIC）、鹿児島国際交流促進センター（かごしま国際交流センター）他関係団体との連携

8. 会議開催及び行事参加

- a) 通常総会・理事会の開催
通常総会　－　令和3年6月11日
理事会　　－　第1回　令和3年6月11日、　第2回　12月
- b) 各種会議、行事への参加
- c) 一般社団法人協力隊を育てる会関連会議への参加

第4号議案 令和3年度予算(案)

(令和3年 4月 1日 - 令和4年 3月31日)

< 収 入 >

(単位円)

項 目	予 算	前年度予算	対前年増減	適 要
会 費	1,195,000	1,265,000	-70,000	法人会員102口×10,000 個人会員35口×5,000
助 成 金	80,000	80,000	0	(社) 協力隊を育てる会
雑 収 入	1,000	1,000	0	預金利息、カレンダー販売
繰 越 金	1,822,629	1,684,678	137,951	
合 計	3,098,629	3,030,678	67,951	

< 支 出 >

項 目	予 算	前年度予算	対前年増減	適 要
1. 事務局費	290,000	270,000	20,000	
通 信 費	60,000	50,000	10,000	総会案内、請求書発送,他
印 刷 費	60,000	50,000	10,000	総会資料、コピー代,他
会 議 費	60,000	60,000	0	
消 耗 品 費	40,000	40,000	0	封筒、文房具、振込手数料,他
負 担 金	20,000	20,000	0	協力隊を育てる会・九州海外協力協会
旅 費	50,000	50,000	0	協力隊育てる会総会出席
2. 事業費	2,090,000	2,090,000	0	
クロスロード月刊誌送付	250,000	250,000	0	2000冊X120円、カレンダー送付手数料
出発隊員壮行会	50,000	100,000	-50,000	負担金
帰国隊員支援	30,000	50,000	-20,000	
国際協力講演会	30,000	30,000	0	通信費,帰国報告
留守家族懇談会	10,000	10,000	0	
協力隊OBと留学生が先生	350,000	350,000	0	実行委員会負担金
派遣隊員支援	300,000	300,000	0	グラフかごしま・ナウ 送付
広報活動	250,000	250,000	0	HP、パネル展、カレンダー、帰国報告
会報発行	250,000	250,000	0	印刷費・送料
青少年国際協力体験事業	400,000	200,000	200,000	実行委員会負担金
国際協力支援事業	300,000	300,000	0	小さなハートプロジェクト他
予備費	718,629	670,678	47,951	
合 計	3,098,629	3,030,678	67,951	

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会役員(案)

令和3年7月1日～令和5年6月30日

役 員 名	氏 名	現 役 職 名
顧問 ★	塩 田 康 一	鹿児島県 知事
〃	佐 野 輝	鹿児島大学 学長
〃 ★	下 鶴 隆 央	鹿児島市 市長
〃	岩 崎 芳 太 郎	鹿児島商工会議所 会頭
〃	井 上 晃 男	鹿児島大学名誉教授 前会長
会 長	衛 藤 威 臣	鹿児島大学名誉教授
副 会 長	寺 園 直 喜	(公財)鹿児島県国際交流協会 専務理事
理 事	永 倉 悦 雄	鹿児島相互信用金庫 理事長
〃	岩 元 純 吉	(株)山形屋 代表取締役会長
〃	海江田 順三郎	鹿児島ユネスコ協会副会長
〃	松 山 澄 寛	(株)鹿児島銀行 頭取
〃	岸 尾 隆	鹿児島県市長会 事務局長
〃	小 正 芳 史	鹿児島県中小企業団体中央会 会長
〃	大 柳 俊 一	鹿児島県町村会 事務局長
〃	佐 潟 隆 一	(株)南日本新聞社 社長
〃	志 賀 啓 一	志学館大学 理事長
〃 ★	伊 瀬 知 強	鹿児島県国際交流課 課長
〃	橋 口 知 章	川内商工会議所 会頭
〃	坪 水 徳 郎	鹿屋商工会議所 会頭
〃	永 山 在 紀	南国殖産(株) 社長
〃	中 野 寿 康	(株)南日本放送 社長
〃	原 口 泉	志学館大学 教授
〃	東 勤	(株)ヒガシマル 社長
〃	南 徹	iBS外語学院 院長
〃	斎 藤 真 一	(株)南日本銀行 頭取
〃	安 楽 大	(株)トータルコミュニケーションサービス 社長
〃 ★	木 原 和 代	青年海外協力隊鹿児島県OB会 会長
〃	桑 山 昌 洋	かごしま国際交流センター所長
兼事務局長	弓 場 秋 信	弓場貿易(株) 社長
監事 ★	古 田 宜 稔	外蘭グループ 部長
〃	千 竈 逸 雄	(株)文化社

教育事務所 等	市町村名	学校名	学年	対象 人数	派遣日	OB	外国人
鹿児島市	鹿児島市	ニシダ 西田小学校	5	111	2月25日	津平 由紀恵(ガーナ)	黄 敬蓉(台湾)
		キンコウダイ 錦江台小学校	6	134	2月2日	長嶺 快多(パプアニューギニア)	シン ジョンヒ(韓国)
		タニヤマキタ 谷山北中学校	2	195	10月22日	竹原 辰昇(インド)	—
		スズヤマ 錫山中学校	全	3	12月11日	津平 由紀恵(ガーナ)	*レ ホアン クック(ベトナム)
鹿児島	日置市	イサク ダ 伊作田小学校	3, 4	18	1月29日	竹原 辰昇(インド)	*グエン パン トウ(ベトナム)
		ナガヨシ 永吉小学校	全	41	2月1日	塚田 拓(コスタリカ)	—
	いちき串木野市	セイフク 生福小学校	4～6	48	10月19日	永野田 彩(ジブチ)	*グエン パン トウ(ベトナム)
		アラカフ 荒川小学校	3～6	23	12月18日	平田 華代(モロッコ)	サナブリア ディエゴ(パラグアイ)
南薩	枕崎市	マクラザキ 枕崎中学校	3	74	7月17日	木原 和代(パラグアイ)	—
		サクラヤマ 桜山小学校	6	22	2月9日	竹原 辰昇(インド)	黄 敬蓉(台湾)
		タテガミ 立神小学校	6	52	2月4日	深澤 幸子(ブルキナファソ)	—
		ベップ 別府小学校	5	15	10月21日	漣 舞(ペルー)	—
		サクラヤマ 桜山中学校	全	69	12月12日	仮屋 慶一(モルディブ)	* 孟 卓然(中国内モンゴル)
北薩	長島町	ヒラオ 平尾小学校	全	68	11月10日	田中 久雄(インドネシア)	*レ ホアン クック(ベトナム)
	薩摩川内市	センダイチュウオウ 川内中央中学校	3	175	11月25日	本田 隆一(トンガ)	*グエン ティ トウ(ベトナム)
	出水市	ニシイズミ 西出水小学校	6	85	2月18日	仮屋 慶一(モルディブ)	—
	出水市	エ ウチ 江内小学校	全	86	2月17日	仮屋 慶一(モルディブ)	—
	さつま町	グミョウ 求名小学校	全	39	11月20日	本田 隆一(トンガ)	—
	出水市	イズミ 出水中学校	全	400	2月5日	長嶺 快多(パプアニューギニア)	*グエン ティトウ(ベトナム)
始良・伊佐	霧島市	ナカンガワ 中津川小学校	5,6	11	11月27日	永野田 彩(ジブチ)	—
	始良市	ニシキエ 錦江小学校	4	37	2月4日	永山 俊介(中国)	—
	伊佐市	タナカ 田中小学校	6	16	1月19日	仮屋 慶一(モルディブ)	—
	霧島市	コクフ ニシ 国分西小学校	6	109	12月18日	前原 無量(スリランカ)	ミヒヤエル シレニ(ドイツ)
	霧島市	アモリガワ 天降川小学校	6	130	2月19日	竹野 愛(タイ)	—
	伊佐市	ヤマノ 山野小学校	全	42	11月5日	永野田 彩(ジブチ)	—
	霧島市	マキノハラ 牧之原中学校若駒分校	全	7	5月28日	徳峰 みゆき(ブラジル)	*ファン ヒョンムク(韓国)
	湧水町	ヨシマツ 吉松中学校	全	64	6月15日	竹野 愛(タイ)	—
大隅	曾於市	イワキタ 岩北小学校	2～6	11	11月5日	下松 裕和(ブラジル)	*カンデル ミトラ プラサド(ネパール)
	肝付町	クニミ 国見中学校	全	31	12月4日	丸野 里美(カンボジア)	*ホサイン シャハジャダ (バングラデシュ)
	志布志市	アリアケ 有明小学校	6	25	2月19日	平田 良幸(ドミニカ共和国)	—
熊毛	中種子町	マスダ 増田小学校	全	37	2月9日	近森 章(ラオス)	角野 百合加(中国)
		イワオカ 岩岡小学校	全	20	11月5日	塚田 拓(コスタリカ)	—
		ノマ 野間小学校	5	44	11月20日	日高 かおり(ザンビア)	—
大島	宇検村	タケン 田検中学校	全	19	11月14日	向田 めぐみ (ブータン・ソロモン)	角野 百合加(中国)
	伊仙町	オモナワ 面縄小学校	5,6	41	11月10日	塚田 拓(コスタリカ)	*グエン ティトウ(ベトナム)
	伊仙町	アゴン 阿権小学校	全	20	12月2日	塚田 拓(コスタリカ)	シン ジョンヒ(韓国)
	天城町	アマギ 天城中学校	全	69	2月10日	西 星良(タンザニア)	—
特別支援学校	—	カゴシマ ヨウゴ 鹿児島養護学校	中等部	8	1月29日	—	黄 敬蓉(台湾)
	19市町村	38校		2399		延べ37人(実数23人)	延べ20人(実数12人)

OB会など支援充実

JICA（国際協力機構）が毎年、開発途上国に派遣している青年海外協力隊。1965年に初代の隊員がラオスに行き、以来、これまで92カ国で延べ4万5776人が活動してきた（2020年12月末現在、シニアを除く）。累計では4695人の東京都が最も多いが、人口10万人当たりでは55・1人の鹿児島を筆頭に上位10位内に九州・山口の6県が入っている。8位の大分県は、女性が54・6％と全国で最も高い割合となっている。

【井上和也】

データはっけん

九州・山口8県のすがた

協力隊の仕事は開発途上国からの要請によるもので、農林水産や商業観光、スポーツの人的資源など9分野約190職種に及ぶ。職種では▽コミュニケーション▽理数科教師▽小学校教育▽日本語教育▽看護師の順に多い。

◆人口10万人当たりの派遣累計◆

①鹿児島県	55.1人
②島根県	54.5人
③宮崎県	51.3人
⑤長崎県	50.8人
⑧大分県	47.8人
⑨熊本県	46.9人
⑩山口県	43.7人
⑪佐賀県	41.2人
⑫福岡県	39.8人

（2020年末JICA調べ、人口は2019年10月1日現在）

青年海外協力隊 出身者多く

済・社会の発展やボランティア経験の社会還元など。文化も言語も異なる土地で得意分野を生かした職種での関わりは、現地の人にとっても協力隊員にとっても貴重な経験となっている。

エチオピアで2年間地下工務に従事し、帰国後、福岡県太宰府市で地質コンサルタント事務所を開業した安村和俊さん（66）は「人



エチオピアで井戸掘り作業をする安村さん（中央）

◆青年海外協力隊

派遣実績◆
派遣・帰国累計

都道府県	派遣・帰国累計
①東京	4695人
②神奈川	3151人
③大阪	2585人
⑥福岡	2035人
⑪鹿児島	883人
⑫熊本	821人
⑬長崎	675人
⑭山口	594人
⑮宮崎	551人
⑯大分	543人
⑰佐賀	336人

生が変わった」という一人。約35年前、数カ所の難民キャンプで井戸を掘り、水が出た時、現地の人たちと喜びあった時のことを鮮明に覚えている。「人との交流が楽しかった。価値観が変わった」と振り返る。任務期間中に、マラウイで協力隊として理数科教師をした後、NGOのプロジェクトとして病院運営のためエチオピアに来ていた妻妙さん（62）と出会い、結婚。2016年度には長男（32）はウガンダ、次男（31）はマラウイと、いずれもアフリカの地でコミュニケーション開発の職種で協力隊に参加している。

「鹿児島県協力隊を支援する会」事務局長の弓場秋信さん（73）は1972年から2年間、マレーシアに溶接の職種で派遣された。帰国後は「若い世代を育てたい」と県OB会の会長や協力隊進路相談カウンセラーなども務めた。「協力隊OBと留学生先生」事業として年間約40回、小中学校を回って協力隊の活動も伝えている。県内からの派遣者が多い理由について、弓場さんは自身がかつてそうであったように「鹿児島は海に囲まれているので新しい環境の中でいろんな人と出会い、いろんな文化と触れ合いたいからでは」と話す。九州出身者が多いことについてJICA九州の赤司周平さんは「感覚的には」と前置きしたうえで「OB会などのバックアップ体制が充実しているからではないか」という。

協力隊は2020年、新型コロナウイルスの影響で派遣中だった約2000人が全員帰国。春の募集は選考で中止となり、秋は募集も中止となった。21年は春募集を5月20日～6月30日で実施する。